

2022年10月14日

各 位

会 社 名 株式会社ワイズテーブルコーポレーション
代表者名 代表取締役社長 船 曳 睦 雄
(コード：2798 東証スタンダード)
問合せ先 取締役執行役員 武 本 尚 子
(TEL：03-5412-0065)

**営業外収益及び営業外費用の計上、固定資産の取得、
2023年2月期第2四半期連結業績予想と実績値との差異、
並びに2023年2月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ**

当社は、2023年2月期第2四半期（2022年3月1日～2022年8月31日）において、助成金収入（営業外収益）及び営業外費用を計上することとなり、また、固定資産を取得いたしました。

また、2022年4月18日に、2023年2月期第2四半期連結業績予想及び通期連結業績予想を公表いたしました。第2四半期については連結業績予想と本日公表の実績値とに差異が生じ、通期（2022年3月1日～2023年2月28日）については、直近の業績動向等を踏まえ、連結業績予想を修正いたしました。

これらについて、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 助成金収入（営業外収益）の計上について

当第2四半期において、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための協力金、及び雇用調整助成金等269,011千円を営業外収益に計上いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の助成金収入の合計は330,042千円となりました。

2. 営業外費用の計上について

当第2四半期において、金融機関との約定に基づく支払利息6,410千円及びその他の営業外費用1,397千円を営業外費用に計上いたしました。なお、持分法適用会社である株式会社ICONIC LOCATIONS JAPANについて、持分法による投資損失24,964千円を第1四半期に営業外費用として計上しておりましたが、同社の経営成績を踏まえ、持分法による投資利益24,773千円を営業外収益に計上いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の営業外費用の合計は17,129千円となりました。

3. 固定資産の取得について

当第2四半期において、一部の店舗について、将来の発生が見込まれる原状回復費用を、直近の実績を勘案して見直し、資産除去債務対応費用を積み増しました。このほか、直営店の維持更新投資等を行い、固定資産61,971千円を取得いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の固定資産の取得額の合計は89,302千円となりました。

(以下次葉)

4. 2023年2月期第2四半期連結業績予想と実績値との差異について

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,064	△137	189	185	63.77
今回発表実績 (B)	4,540	△351	58	16	5.32
増減額 (B - A)	△524	△213	△130	△169	△58.45
増減率	△10.4%	—	△69.0%	△91.3%	△91.7%
(ご参考) 前年同期実績 (2022年2月期第2四半期累計)	3,589	△963	△48	△51	△17.61

(差異の理由)

2022年4月18日に公表いたしました2023年2月期第2四半期連結業績予想は、2022年5月までは新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、2022年6月以降は、感染拡大前である2019年の水準近くに売上高が回復するとの見込みに基づき作成いたしました。

しかしながら実際には、2022年7月及び8月に新型コロナウイルス感染症の感染が再度拡大しました。このため店舗への来客数が減少し、XEXグループ、カジュアルレストラングループともに、売上高が落ち込むこととなりました。外出を控える傾向の高まりを受けてデリバリーの需要の増加はみられましたが、労働力不足等により売上高は伸び悩み、全体の売上高は予想を下回りました。利益面におきましては、売上高の未達に加え、電気料の高騰等の影響もあり、営業利益及び経常利益ともに予想を下回りました。予想に織り込んでいなかった閉店の決定により減損損失31百万円を計上したこと、繰延税金資産の取崩しによる法人税等調整額9百万円を計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純利益においても予算を下回ることとなりました。

5. 2023年2月期通期連結業績予想の修正について

(1) 2022年4月18日公表の連結業績予想作成の前提と、実績との相違について

まず、当第2四半期連結累計期間については、上記4(差異の理由)に記載のとおり、連結業績予想と実績値との差異が生じました。

次に、通期について、2022年4月18日に公表いたしました通期連結業績予想は、2022年6月以降は新型コロナウイルス感染症の影響がほぼ解消し、感染拡大前の水準に売上高が回復することを前提として作成いたしました。しかしながら実際には、2022年7月からの感染再拡大の影響が下期にも残り、売上高の回復にはまだ時間を要すると見込まれます。

(2) 2023年2月期連結業績予想修正の前提について

通期の既存店売上高を、2020年2月期の水準に対して83%と設定いたしました。2022年10月以降、新型コロナウイルス感染症の影響は解消されていくと想定しております。食材価格や電気料等の高騰の影響を織り込んだ上で、その他のコストの削減に取り組み、利益の確保を図ります。

(以下次葉)

(3) 2023年2月期連結業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	10,921	131	523	516	174.16
今回発表実績 (B)	9,972	△314	144	99	32.99
増減額 (B - A)	△949	△446	△379	△416	△141.17
増減率	△8.7%	—	△72.4%	△80.7%	△81.1%
(ご参考) 前年同期実績 (2022年2月期累計)	8,148	△1,446	303	314	106.11

以上

本リリースに関するお問い合わせ先： 株式会社ワイズテーブルコーポレーション
 経理・財務・IRグループ TEL 03-5412-0062